

# おかやま子ども支援ネットワーク事業 年間事業報告書【美作圏域】

担当法人：特定非営利活動法人オレンジハート

(※記載内容は、令和5年3月31日時点のものです)

## 【内 容】

### 1 受託法人の紹介

#### (1) 設立経緯・活動目的

特定非営利活動法人オレンジハート（以下「オレンジハート」という）は平成23年に設立されました。

今日、子どもたちの状況は多様化しています。傷ついた心を持つ子ども、障がいのある子ども、学校にいけない子ども、更に思春期前後の子どもにとって、一律の公共サービスでは健全な成長すらも保障されず、サポート体制も十分ではありません。一方、保護者も希薄な人間関係や不規則な仕事・不安定な労働条件の中で、不安を抱えながら子育てに奮闘しています。地域の状況に応じた子どもの支援活動の拠点を作り、居場所事業などの子育て環境を充実させることで、子どもの健全な成長に寄与することを目的としています。

#### (2) 活動内容

- ① 不登校・ひきこもりの子どもや保護者に対しての精神的・物理的な支援、復学・社会的自立支援活動フリースクール・個別カウンセリング・グループカウンセリング（親の会）・農業を通して自然体験の中から心の緊張を緩める事業など
- ② 児童虐待やドメスティック・バイオレンス（DV）、性暴力などの被害児童・生徒を保護・支援する活動
- ③ 非行や地域犯罪などから子どもを守るための支援活動
- ④ 子どもの居場所づくりとして子ども食堂（津山市・真庭市）やトワイライト（しゃべり場）事業等
- ⑤ 子どもや保護者の不安や悩みに耳を傾ける相談活動
- ⑥ 発達障がい（自閉症スペクトラム、パニック障害、学習障害など）を持つ児童の学習サポート支援活動（必要に応じて訪問支援も行う）
- ⑦ 放課後健全事業（美作市・津山市）
- ⑧ 食品ロス削減活動（フードバンク事業）、ひとり親家庭・生活困窮家庭への物資の支援活動
- ⑨ 地域住民や様々な団体との交流活動（地域を超えてオレンジマルシェ活動）
- ⑩ フード&ライフドライブ事業  
コロナ禍での給料減額や、失業などで打撃を受けた子育て家庭に対して、企業や市民の家庭で眠っている食糧品や日用品をいただき、物資を届ける「フード&ライフドライブ」を2020年9月より開始しました。具体的には、津山市との連携によるアンケート調査後、引換券を渡し、申込制とし

て特設会場で物資を渡します。会場に来られない人への発送や津山市要保護児童対策地域協議会担当職員が家庭訪問の際に渡すなど行い、当事者の相談対応業務を担っています。2020年の冬には、認定NPO法人ハーモニーネット未来、一般社団法人子どもソーシャルワークセンターつばさと連携し、クラウドファンディングにて資金調達を実施しました。また、フードドライブや子ども食堂を通じて見守り支援を実施しています。

- ⑪ 上記①から⑩以外で「子どもを守る」という視点に立った活動テーマの研究企画

## 2 美作圏域の子どもの貧困及び支援団体の現状・課題について

### (1) 美作圏域の子どもの貧困の現状・課題について

・暮らしを支える「仕事」は厳しさを増し、働いていても貧困状態が改善されません。さらに、不安定な就労形態が子育ての余裕を奪い、ストレスから子どもの気持ちすら受け取れない親を増やしています。

・一方、子どもは、教育格差など生まれた環境において、すでに負の連鎖が起きています。塾や習い事も諦めて、親に向けても「甘えたい」気持ちを抱えながらそれができずに毎日を過ごしており、不登校になる子どもが少なくないのです。意欲の低下や身体的症状に不調が現れてくる子どももいます。このような子どもは自己肯定感が極めて低くなり、状況が改善されないと将来、仕事に就くことすら難しく、生活困窮に陥ることがあります。親の経済的問題が子どもの問題となり貧困の連鎖が生じていきます。

・相談支援業務の中で、若いひとり親家庭を訪問したことがあります。母親は非正規雇用の繰り返し、働くことが精一杯で家事ができず、家はゴミ屋敷でした。子どもは家の片づけを任せられており、片付けができていない時は、母親が登校を認めず学校を休ませていました。その子どもは、学年が上がるにつれて親子喧嘩が絶えず、夜になるとアパートから出て階段の下で寝ることもありました。本人や妹から助けてほしいとの電話が頻繁になり、小学校を通して専門家へ繋ぎましたがなかなか状況は変わらず、更に子どもの身体に傷がついていることを発見してからは、見守りは重要と思い、一日おきに訪問を繰り返したこともありました。

家事のサポートに入った時は、冷蔵庫の中は空っぽで、夕食の準備を手伝いましたが、傷みかけた野菜とお米しかないことがよくありました。子どもに聞くとほぼ毎日冷凍食品やお弁当で食をつないでいる状況でした。ひとり親家庭は働きながらの子育てが厳しく、ゆとりが持てずストレスを我が子に向けてることを目の当たりにしたのです。その後、母親の相談役となり子どもは施設へ入ることになりました。この事例から親自身のサポートや相談窓口の重要性を感じています。

### (2) 担当圏域の支援団体の現状・課題について

### 【資金不足】

現在、オレンジハートで実施している事業は、寄付金や民間企業の助成金を財源としています。助成金は単年度のもものが多く、事業を安定して継続させることが難しいです。また、人件費に充てることができない助成金も多く、資金調達などの経営面と事業の実施(相談員などとして従事)の両立が課題となっています。特にフードドライブ事業の需要が急激に伸びていますが、フードドライブ事業は、人件費の助成金がなく、現時点ではボランティア活動に頼っており、今後の継続的な支援ができるのか不安に感じています。

### 【人材不足】

子どもの貧困問題を理解し、支援の視点をもちながら関わる居場所事業の中で、子どもたちの言動から生活の実態や保護者の状態、経済的な状況などを把握することが求められます。また、夕方から夜間にかけての時間や、土日の支援が足りていないため、その時間帯の事業が必要ですが、平日の夜間帯に勤務できる人材も少ないです。前述したように人件費の確保も難しいとなれば、なおさら支援者の確保が難しい現状があります。

## 3 おかやま子ども支援ネットワーク事業の取組について

### (1) 情報発信・情報共有を含めたネットワーク体制の構築

#### ①ネットワークの構築

##### 【ネットワークの目的】

・子どもの居場所(子ども食堂など)の持続可能な活動の仕組みづくりや運営の強化、民間団体の対応力の向上などを図ります。

○新たに活動したい方々、団体のサポート

○食材及び物品などの寄附情報の提供

○研修会やケース検討会の開催

【会員数】15団体

【会員の属性】子どもの居場所、市社協、若者自立支援、福祉法人、市民団体等

#### ②ネットワーク参加の働きかけ

・市町村社会福祉協議会、JA青年部、県北社会福祉士会研修会、民生委員・児童委員研修会、人権擁護委員研修会などに訪問し、「子どもの現状と課題～大人が取り組むソーシャルアクション～」と題して講演を実施しました。

・各圏域内でネットワークをつなぎ、食糧支援を手法とした見守り支援を県全体に広げていく事について説明しました。併せて、研修の開催についての案内も行い、ネットワークへの参加の働きかけをしました。

・子どもの居場所や社会福祉法人、子どもの居場所づくりに関わる団体に対して、研修会や交流会の開催を案内しました。

- ・交流会では、参加団体のお互いの現状と活動状況の共有をしました。ネットワークとしての繋がりを構築すると共に、今後の活動に向けての課題等共有ができました。

### ③ネットワーク会議

| 会議の概要   | 参加者の声、得られた成果   |
|---|--|
| <p>&lt;令和4年4月～5月&gt;<br/>美作市要保護児童対策地域協議会、真庭市社会福祉協議会、勝央町社会福祉協議会、真庭市、鏡野町に訪問。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体間の情報共有</li> <li>・本委託事業の趣旨説明</li> <li>・フードバンク活動の取組等の説明</li> </ul> | <p>各圏域内でネットワークをつなぎ、食糧支援を手法とした見守り支援を県全体に広げていく事について説明。お互いの現状の活動状況の共有、今後の活動に向けての課題等共有ができた。</p> <p>また、今後窓口を通じて、情報交換を行っていく等、必要な世帯への支援が届けられるよう協力する事となった。（美作市要对協）</p>             |
| <p>&lt;令和4年6月29日&gt;<br/>真庭こども食堂へフードバンク活動についての紹介、子ども食堂運営のボランティアスタッフの募集等について、話し合い。</p>   | <p>7/23に子ども食堂を開始する事が決定。今度オレンジハートのスタッフと落合のボランティアスタッフとで、交代で運営をしながら、独立した運営を目指す事となった。（立ち上げ支援）</p>  |
| <p>&lt;令和4年7月8日&gt;<br/>川崎医療福祉大学の直島克樹先生を講師として呼び出して、地域をつなげるフードドライブと題して、研修会、交流会を開催。フードドライブを通じた見守り支援の実施について、事例を交えて、ご説明頂いた。</p>   | <p>交流会では、参加団体のお互いの現状の活動状況の共有。ネットワークとしての繋がりを構築すると共に、今後の活動に向けての課題等共有ができた。</p>  |
| <p>&lt;令和4年12月23日&gt;<br/>NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえの三島理恵様を講師として呼び出して、地域をつなげる子ども食堂と題して、研修会、交流会を開催。</p>  | <p>交流会で、参加団体のお互いの現状と活動状況を共有。ネットワークとしての繋がりを構築すると共に、今後の活動に向けての課題等共有ができた。また研修参加をきっかけに、来年度から、行政としてみんな食堂の取り組みについて予算化（新庄村）、子ども食堂をしているNPO法人と連携などお話があった。</p>                       |
| <p>&lt;令和5年2月24日&gt;<br/>川崎医療福祉大学 講師の直島克樹様をお呼びして、「地域に根付くみんな食堂オンラインQ&amp;A会」と題して、子ども食堂運営に関わる相談会を開催。</p>  | <p>運営に関わる心配事（開催のタイミング、周知方法、献立、立ち上げ時に苦労したこと）等について、講師の方からのアドバイスだけでなく、参加者同士の意見交換も行う事ができた。特に、来年度から子ども食堂を開催予定の新庄村のご担当者が、落合子ども食堂に見学に行くことが決定する等、ネットワーク会員同士の横の繋がりができるきっかけになった。</p> |
| <p>&lt;令和5年3月2日&gt;<br/>認定NPO法人豊島WAKUWAKUネットワーク理事長の栗林知絵子様を講師として呼び出して、「岡山子どもの居場所研修・交流会 ～子ども食堂などの子どもの居場所活動の今とこれから～」と題して、研修会、交流会を開催。</p>   | <p>交流会では、備前、備中、美作の3圏域を跨いで、参加団体それぞれの取り組み事例や困りごとを共有。参加者の方からは、「同じ活動をされているからこそその悩みや気づきが共有できてよかった。」等、圏域を超えて活動を知る事ができ、参加者同士の繋がり作りの場となった。</p>                                     |

#### ④情報発信・情報共有（食材提供や寄附等）の状況

- ・食糧品の提供、研修の案内、研修での子ども食堂の運営ノウハウや全国の子ども食堂の実態等の情報提供、中間支援団体の紹介などの情報を発信・共有しました。
- ・真庭市でのみんな食堂がスタートし、子ども教室などと連携し、あそびとセットで実施しました。当日の利用者にフードバンクの物資を配布することが出来ました。
- ・新庄村での子ども食堂の開催が来年度に予定されており、食材提供など今後も行っていく予定です。

#### ⑤協力企業・団体の発掘、連携

- ・生協組合員の方にご協力頂き、コープ林田にフードドライブBOXを4日間設置しました。事前に、店内にチラシの掲示、近隣各地の生協組合員の方にご案内など、広く告知いただきました。お菓子、インスタント食品、生活用品など多くの寄付をいただく事ができました。
- ・かぼちゃん企画（オリジナルTシャツを販売し、売上金でかぼちゃんの苗や種を購入。農家の方等に、耕作放棄地等を利用してかぼちゃを育ててもらい、収穫したかぼちゃの一部を寄付してもらう取り組み）を実施し、JA女性部をはじめ団体や個人の方（述べ22件）からかぼちゃをの提供をいただき、数量約730個、重量約850kgの寄付を受けることができました。いただいたかぼちゃは、フード&ライフドライブで配布、福祉施設等の施設や団体に寄付、圏域内の子ども食堂で活用するなど、多くの必要としている個人団体にお届けする事ができました。また、「Tシャツの購入」や、「かぼちゃの栽培」という支援方法により、ボランティア参加や寄付等の直接的な関わりが難しくても、間接的に活動に関わる事ができ、より一層多くの方や団体に活動を知っていただき、関わってもらうきっかけとなりました。
- ・社会福祉法人の職員の方が、フードドライブ活動に関心があり、市役所に問い合わせた所、オレンジハートを紹介されました。その後、職場にてフードドライブを実施され、集めた物資をオレンジハートに寄付されました。職場の方々にもオレンジハートの活動を知ってもらうきっかけとなりました。

#### ⑥ボランティア等の受け入れ

- ・12/11実施のフード&ライフドライブに、美作大学社会福祉学科の学生がボランティアとして参加されました。12/20にその振り返りと、オレンジハートの活動やフード&ライフドライブ、子ども支援について紹介しました。
- ・津山東高校のロングホームルームにて、フード&ライフドライブや子ども食堂の運営について紹介しました。オレンジハートの活動内容や事例を通じて、地元の学生の方々に、地域の子育て環境や、子ども支援の必要性について学ん

でいただきました。これをきっかけとして学生が継続的にボランティア参加されています。

- ・津山高校学生がオレンジハートを見学され、フード&ライフドライブや、子ども食堂の運営について学習されました。

### ⑦子どもの居場所で取り扱っているケース検討

- ・フード&ライフドライブ及び子ども食堂にて支援をしている家庭のケースで、津山市担当課と必要な支援を検討し、窓口を紹介しました。担当課からアドバイスをもらい、継続的な見守りを実施しています。

- ・個別相談があり、行政とのケース検討の中で、個別支援、公的支援など今後も引き続き見守りが必要との行政からのアドバイスがありました。

## (2) 市町村域を超えたフードドライブを通じた見守り支援の実施及び実施体制の構築

### ①対象者の把握方法

- ・津山市役所と連携し、ひとり親世帯に申し込みチケット（330枚）を事前に配布、チケット記載のLINEアカウントへ登録してもらい、希望される方にLINEから申し込みをいただきました。

- ・津山市要保護児童対策地域協議会と連携し、対象者に引換券を配布しました。行政と連携することにより、支援が必要な世帯に食品や日用品などの物資の配布を行う事ができました。また、子ども食堂などの情報を発信し、継続的な見守り体制を構築できました。

### ②物資の収集方法

- ・食料品などの寄付の受付を毎週火・木曜日の午前中に、オレンジハート事務所で実施しました。一般市民、農家、スーパーなどの企業から、多くの食品（お米、野菜等）の寄付をいただきました。

- ・親子エコフェスタ（会場：アルネ津山）にて、フードドライブ活動のPR、食品提供の募集の声掛け、食品回収BOXを設置しました。期間中、ビラ配りを実施し、多くの方にフードドライブ活動を知っていただき、たくさんの方から食品の提供を受けました。（食品重量46.5キロ、主にお菓子、インスタント食品、調味料、缶詰等。）また、津山朝日、山陽新聞にも取り組みを取材していただきました。

- ・かぼちゃん企画を実施し、JA女性部をはじめ、団体や個人の方（述べ22件）からかぼちゃをご提供いただき、数量約730個、重量約850kgの寄付をいただきました。いただいたかぼちゃは、フード&ライフドライブ等で配布しました。

- ・多くの方から、協力のお声を頂いており、活動の広がりを実感しています。今年度以降も継続して続けていきたいと考えています。

・生協組合員の方にご協力いただき、コープ林田にフードドライブBOXを4日間設置しました。事前に、店内にチラシの掲示、近隣各地の生協組合員の方にご案内など、広く告知いただきました。お菓子、インスタント食品、生活用品等を多くの寄付を受ける事ができました。

・7月に開催した研修の参加者の方が、研修会をきっかけに職場でフードドライブの呼び掛けをされました。食品等の物資をオレンジハートに寄付頂き、ネットワークを広げることができました。

### ③配布方法

- ・年3回のフード&ライフドライブを実施しました。
- ・配布方法については、事前に袋詰めし、スムーズに渡せるよう工夫しました。洗剤、ティッシュペーパー等の大きな物は、エコバックを持ってきて頂くように案内し、自分で順番に取って行ってもらう形とすることで、スムーズに受け渡しことができました。

### ④相談対応件数

- ・相談件数：48件
- ・主な相談内容
  - フードドライブに継続的に来られている方からの相談対応など（継続的な繋がりの中で、随時相談対応を実施）
  - 行政相談員とSSWの方から、連絡をいただき、緊急を要する家庭にそれぞれに物資を支援しました。
  - 毎回フード&ライフドライブの参加者にアンケートを実施しています。相談として、家庭の問題、子どもの学習、忙しい時に簡単に作れる料理を教えてほしい等がありました。
  - 仕事が突然なくなり、後遺症もあり、在宅でできる仕事の相談などがありました。
  - 津山市要保護児童対策地域協議会から相談があり、粉ミルク、新生児用のおむつ等を購入して、家庭にお渡ししました。

### ⑤関係機関につないだケース

- ・関係機関につないだ件数：3件
- ・主な内容
  - 子ども食堂につなげたり、近況報告を受けたり継続的な見守りを実施しています。（津山市への相談を案内）
  - 公的支援を受けることができるように、行政につながりました。
  - フリースクールを案内し、利用を開始、学習サポートや学校との情報交換を実施しました。

## ⑥これまでの活動エリアを超えてのフードドライブの実施

- ・美作市とのネットワーク強化するため、美作市役所へ食糧品などの物資 30 世帯分をお渡ししました。

## 4 本事業を実施して感じたこと

### (1) 課題

- ・地元スーパーなど多く企業から食品等の寄付をいただいているが、ネットワークづくりの観点から、より多くの企業や事業者の方と連携し、食品等の寄付以外でも関わっていただく事で、活動をより多くの方に知ってもらう必要を感じています。
- ・フード&ライフドライブの配布実績が少ない市町村での取り組みについても、今後実施をしていく必要があると考えています。
- ・物資を保管する場所（倉庫、大型の冷凍冷蔵庫）の確保及び固定費の課題があり、ネットワークの各団体においても同様です。
- ・見守り支援を通して、支援を必要としている人がいても、そのエリアに支援ができる団体や人材がない場合もあり、まだまだ支援が届いていないと実感しています。

### (2) それに対する解決方法

- ・現在までにフードドライブ活動で受益者がいない市町村（特に美作市、奈義町、久米南町、西粟倉村）に対し、積極的な広報活動を実施します。
- ・各市町村の要保護児童対策地域協議会及び子育て関係の窓口や社会福祉協議会へチラシの設置を依頼します。
- ・子育て家庭に対し、年間を通して紹介できるチラシを作成し、県内の S S W などに必要時に使用してもらうよう依頼します。
- ・倉庫の賃貸などの維持費に関しては、助成金の活用などが考えられるが、更なる事業拡大の為には、より安定した予算の確保が求められます。行政との連携により、地域での活動において信頼も蓄積できるため、継続的な保管場所確保の方法を検討していきます。
- ・支援ができる団体や人材がない地域については、その地域の行政と団体や人材をマッチングできるように、行政の担当課と頻繁に情報交換をしていく事が必要と考えます。

### 【参考】

- HP : <http://orangeheart.main.jp/www/>  
Facebook : <https://www.facebook.com/orange.npo/>

(※記載内容は、令和5年3月31日時点のものです)